

掲 載 記 事

掲載年月日

平成 23 年 12 月 28 日

掲載紙

民報(2面)

民報

路線バスに設置される放射線測定装置



実証試験始まる 福島で京大

路線バスに放射線測定装置を搭載して東京電力福島第一原発事故で拡散した放射性物質の環境モニタリングをする実証試験が二十七日、福島市で京都大原子炉実験所が

路線バス使いモニタリング

福島交通と協力して行う。装置はバス内の最後部に設置され、三秒に一回放射線量を測定しながら営業運行する。測定値は衛星利用測位システム(GPS)による位置情報と合わせ地図上に表示され、インターネットを通じて情報を共有できる。市内の路線バス一台で数週間、実証試験を行う。県内ではこれまで県が同様の装置を乗用車に積載し、放射線量が局地的に高い「ホットスポット」を探す実験や通学路の線量調査などを行ってきた。今回、路線バスに設置した放射線測定装置は従来の装置に比べて小型化し、補正作業が自動化された。設置も簡単になり、専門知識のある測定者の回乗が不要になった。同大は実用化すれば複数の路線バスやコンビニ

た。今回、路線バスに設置した放射線測定装置は従来の装置に比べて小型化し、補正作業が自動化された。設置も簡単になり、専門知識のある測定者の回乗が不要になった。同大は実用化すれば複数の路線バスやコンビニ